

## 2009年度第1四半期 連結業績 国内機関投資家・アナリスト向けテレカンファレンス

### Q&A(要旨)

日 時： 2009年8月11日 16:30~17:20

回答者： 藤方 ソニーフィナンシャルホールディングス 代表取締役副社長

小泉 ソニー生命 取締役

福谷 ソニー損保 執行役員

中村 ソニー銀行 取締役兼 CFO

質問者： 5名

※内容については、理解し易いように部分的に加筆・修正しております。

**Q1. ソニー銀行の利益について、「コアベースでは改善している」という説明があったが、コアでないところでは悪化したということか？**

#### A1. [銀行]

社内管理ベースの「その他収支」は金融市場の変動の影響を受けるものが多く、例をあげると CDS の評価損の増加などがあった。その他にも、会計上の時価ヘッジには該当しないが、保有債券の金利リスクヘッジのために取引しているデリバティブなどもあり、これらが前年同期比で「その他収支」の減少に大きく効いた。ただ、これらデリバティブの評価はマイナスに効いたが、ヘッジ対象である債券の価格は上昇しているので、貸借対照表上の「その他有価証券評価差額」は前年同期と比べて改善している。

**Q2. MCEV について、期初から比べると 1,000 億円近くの改善になっているのではないかと推察するが、何らかのガイダンスをいただけないか？**

#### A2. [生命]

現在、より確度の高い試算ができるよう社内の管理体制を整備している。2009年3月末の既契約（注：2009年6月末の既契約ではない）に対して6月末の金利スワップレートを当てはめて試算ができるようになり、その試算によると3月末に比べて約800億円上ぶれているという試算結果が出た。ただご注意いただきたいのは、この試算はフリクショナル・コストやヘッジ不能コストなどを試算の対象外にしているので、あくまでも確実性等価利益現価とオプションと保証の時間価値の合計部分の変動としてご理解いただきたい（また、修正純資産においては、2009年6月末は2009年3月末と比較して、超長期を中心とする金利上昇により満期保有目的債券の含み益が減少したものの、株価が堅調に推移したことにより CB や株式といったエクイティ性資産の含み益が増加し、約40億円増加したと見ている。当面、四半期ごとに既契約価値に関するこのようなガイダンスを継続する予定）。

**Q3. フリクショナル・コストやヘッジ不能コストは、既契約価値同様、金利上昇の影響により、ともに改善すると思うが、これらを考慮すると、既契約価値はもう少し上ぶれするという事なのか？**

#### A3. [生命]

概ねプラスに動くだろう。

**Q4. MCEVの今後の開示方針についてお聞きしたい。6月1日のMCEV公表のテレカンで、『四半期ごと、あるいは中間期でMCEVの数値開示を検討している』、という話があったが、目処は立っているのか？今年度の第2四半期から公表することは可能か？**

**A4. [生命]**

投資家・アナリストの皆様の参考に供することが出来るよう、できるだけ適切な開示に努めたいと考えている。現時点では、3月末時点の保有契約に対するMCEV既契約価値に直近の市場条件を当てはめて、市場条件の変化にともなうMCEVの動きを把握できる体制を構築した。しかしながら、四半期毎に各期末時点での保有契約に対するMCEVの正確な数値をアップデートすることはまだ難しく、現時点で四半期開示について確かなことをお約束できる状況ではない。したがって、今年度の第2四半期末時点のMCEVを3ヵ月後に公表することは難しい。

**Q5. 新契約EVが約154億円と低位に留まっているが、収益性の観点、長期の金利リスクのヘッジコストを契約者に転嫁するという観点から、主力である死亡保障等の商品の改定等の検討は現時点でどうなっているのか教えてほしい。**

**A5. [生命]**

金利スワップレートをはじめ金利の上昇が2009年3月末に比べて進んできており、このような状況が続けば2008年度に比べ新契約EVは増加すると考えてはいる。商品の見直しについては、MCEVの観点だけでなく、他社との競争環境やお客様のニーズも合わせ、引き続き検討していく。

**Q6. 資産サイドの債券のデュレーションについて、6月末時点で14.7年ということだが、負債とのデュレーションギャップ解消に向けた今年度末あるいは中長期的なターゲットのイメージがあれば教えてほしい。**

**A6. [生命]**

負債サイドのデュレーションは30~40年くらいであり、資産サイドとのギャップを縮めるために引き続き超長期債の購入を着々と進め、資産と負債のミスマッチを解消していく方針である。

**Q7. 2009年度第1四半期でどの程度債券の入れ替えを行ったのか、金額ベースで教えてほしい。それから、今後もイールドカーブがスティープ化する局面で入れ替えを行うのであれば、債券売却により売却益が生じるという理解でよいか。**

**A7. [生命]**

2009年度第1四半期は、超長期債を2,400億円購入しているが、入れ替えにあたるのはその半分程度である。債券の売却益が出る/出ないについては、入れ替え時の金利水準と売り買いのタイミングによっても違うので、なんともお答えできない。

**Q8. 2008年度第4四半期と比較して、この2009年度第1四半期において、変額保険や中小企業向け定期保険などの新契約や解約・失効率についてトレンドに変化があれば、3月末からの変化を教えてほしい。**

**A8. [生命]**

変額保険および法人向け定期保険においては、ともに市場環境・経済環境の影響を受けて、前年同期比で新契約の減少、解約の増加となり、2008年度第4四半期から前年同期比でみた傾向に変化はない（しかしながら、2009年第1四半期の3ヶ月間における解約失効率は、2008年度第3四半期、第4四半期に比べると若干改善していると認識している。2009年度第1四半期の実績を年換算した数値は6.69%と、2008年度通期の実績の6.79%より0.1ポイント低下しており、

2008年度下半期の実績を年換算した数値7.34%より0.65%低下している)。

**Q9.** プレゼンテーション資料 P.10 に、基礎利益が前年同期比で72億円増えたとあるが、その理由と、できれば三利源分析の内訳を教えてください。

**A9. [生命]**

基礎利益の増加要因は、1つは保有契約高が堅調に推移したことによる保険料収入の増加。あとは、超長期債残高増加による利息及び配当金等収入の増加。三利源分析の内訳については開示しない方針なのでお答えできない。

以 上